

で（途中F1三メートルがある）今朝登つていった右俣（どちらかといえば本流）との合流点に着く。一五分程度で橋（金山沢橋）まで下り林道を歩いて車を置いてある所まで行き吾妻川を遡行したパーティと落ち合つた。

（記・）

〔タイム〕

下降開始 一二・五〇一一俣一四・四〇—金山沢橋一
四・五五

戸倉川右俣右沢

一九七九年七月二十二日

◆天気（晴）

未知の沢を登るときには胸がわくわくしてくる。たとえ地図をみて、たぶん大きな滝はないだろうと予測ができるも、突然に二〇メートルも三〇メートルもの大きな滝が現われることを期待して一步一步遡行していく。

この戸倉沢は白布峰に源をおこす標高差約五〇メートルの中規模の沢である。数ヶ所にナメコ栽培地があつて沢沿いにだいぶ奥まで道が入つており、丸太橋がかかって

いた。ちょっととしたゴルジュがあつたが、滝は我々の期待に反して強いてとりあげる程のものはなかつた。このように奥まで道のついた沢は沢登りとしての興味には全く欠ける。

（記・）

〔タイム〕

出合六・二二五—二俣六・四五一終了八・五〇

戸倉川右俣左沢

一九七九年七月二十二日

（下降）

◆天気（晴）

九時一〇分下降開始。最初五メートル程の小滝が三つ出てきて、これならと期待させたがその先は平凡。おまけにブ

